

障害児教育事業

稲田幼稚園

1. 目的

言語及び情緒等に心配や不安のある幼児を対象に一人一人の状態・能力・性格等を把握し、特性に応じた教育を行い、その可能性を開発し、豊かな人間性の育成に努める。

2. 内容

笠間市内に在住する公立・私立幼稚園，保育所（園）等に在園（所）し，発達に何らかの問題がある幼児を対象としている。幼児の在籍する幼稚園・保育所（園）・保護者との連携を図り，集団生活に適応困難な幼児の実態に応じて「個別指導」や「小集団指導」を行っている。

3. 実施状況

ことば・こころの教室「さくらんぼ学級」通級児数 12 名（3 歳児 2 名，4 歳児 3 名，5 歳児 7 名）。

○個別の指導計画を作成し，幼児の状態に応じて 1 人あたり週 1 回 1 時間の個別または小集団の指導を行っている。

（1） 基本的生活の育成

・衣服の着脱，排泄の仕方，靴の履き方等，日常生活における身辺処理の自立ができるように指導を行う。

（2） 個別の指導

・身辺自立のほか，運動・認知・言語・対人関係の課題など，その幼児の良さや可能性を伸ばして発達を促す指導を行う。

（3） 小集団の指導

・個別の指導で学習したことを集団の中で生かすため，複数人の幼児の中で一緒に指導を行う。

○幼児の在籍する幼稚園または保育所（園）へ訪問し連携を図る。

○特別支援教育研修会を実施する。（市内の幼稚園・保育所（園）・保健センターの職員が参加）

4. 内部評価

言語及び情緒等に心配や不安のある幼児及び保護者にとって，個別または小集団での指導を受けることのできる場は必要であり，今後とも継続実施していく。

5. 外部評価委員会の意見

必要性		有効性		効率性		総合評価	
<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input type="checkbox"/> 現行どおり継続	<input checked="" type="checkbox"/> 改善し,継続
<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> 休止又は縮小	<input type="checkbox"/> 民間に移管
<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 事業完了
<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い		

○必要性・重要性は言うまでもないこと。一人の教師が10人～14人ほど受け持っていた時もある由。教師の負担も考え検討する要あらん。親の負担の重さも考慮し、手厚い配慮が必要。

○幼児期の障害児教育事業であり、行政として行うべき事業である。当該幼児及び保護者にとって、一人一人の実態に応じた指導を受ける場は必要であり、現行どおり継続が必要と認められる。

○集団生活に適応困難な幼児にとって、個別に対応してくれる場は、必要であり、成長につながる場であると思います。対応する職員が1名というのは、負担が大きすぎるのでは…と思います。入級希望も多いようですし、やはり話し合いながら進められる、複数名は必要だと思います。市内1ヶ所ではなく、複数ヶ所あれば、親の通園送迎の負担も軽減されるのでは。

6. 外部評価に対する改善等の取り組み

集団生活に適応困難な幼児に対して、一人一人の指導計画を作成しその幼児の良さや可能性を伸ばして発達を促す指導を行い、豊かな人間性の育成のために継続実施してまいります。

今後も適応困難な幼児の数が見込まれ、また、一人一人の教育的ニーズを把握し、よりきめ細かで適切な指導を図るためにも、それに対応する体制づくりが必要となります。

幼児への指導と併せて、保護者の思いを受け止めて精神的な援助や養育に対する支援を適切に行うように努めてまいります。